

# 2019年産はだか麦の栽培しおり

## (品種名：イチバンボシ)

発行：香川県農業協同組合  
監修：香川県

- ◎排水対策を徹底し、収量・品質の向上を図りましょう
- ◎適期播種・適期防除(赤かび病)・適期収穫に努めましょう
- ◎種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう

### 1. 生育の目安

播種期	節間伸長開始期	出穂期	開花期	成熟期
11月14日	3月4日	4月2日	4月9日	5月18日

(香川県農業試験場(綾川町) H23~30年産ドリル播)

### 2. 播種

播種適期	播種量(kg/10a)	
	ドリル播	全面全層播
11月15日~25日	7~8	13~15

- ・播種の早限は11月10日とする。
- ・12月20日を過ぎて播種すると、収量・品質が低下するおそれがあるので注意する。

### 4. 栽培のポイント

- 排水対策**  
播種前対策：ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置  
播種後対策：ロータリー幅ごとに深さ15~20cmの排水溝を設置し、落水口と確実に連結する
- 土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6~6.5を目安とする)**
- 適切な肥培管理**  
適正な施肥量と適期の追肥  
1月に葉の黄化がみられた場合に追肥(6. 肥培管理参照)
- 雑草の体系防除**  
播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底
- 病害虫の防除**  
**赤かび病**の適期(開花始めとその7~10日後の2回)防除
- 収穫の適正化**  
適期収穫・**雑草種子**(カラスノエンドウ・ヤエムグラ)の混入防止

### 3. 排水対策と土入れ作業



播種前の排水溝設置作業



畦立て同時播種作業(逆転耕)



落水口と排水溝の連結



土入れ作業

### 5. 作業の要点

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
排水対策 (ほ場の乾田化)	耕起 / 播種 (溝あげ)	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	刈取り / 乾燥調整	刈取り / 乾燥調整
雑草防除(播種前) 種子消毒	雑草防除(初期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	赤かび病	赤かび病
(溝あげ) 稲刈後のワラを浅く鋤き込ませ、み(3~5cm)排水溝を設ける。	(雑草) 除草剤を散布する。雑草の発生が多い場合は、	(雑草) 除草剤を散布する。雑草の発生が多い場合は、	(雑草) 除草剤を散布する。雑草の発生が多い場合は、	(雑草) 除草剤を散布する。雑草の発生が多い場合は、	(雑草) 除草剤を散布する。雑草の発生が多い場合は、	(雑草) 除草剤を散布する。雑草の発生が多い場合は、	その7~10日後に行う。赤かび病の防除は、開花始めと	その7~10日後に行う。赤かび病の防除は、開花始めと
(消毒) 伝染病対策として種子粉衣による消毒を実施する。	(播種) とする。(ドリル播) 条間17~20cm、播種深3cm	(排水) 排水溝と落水口を確実に連結する。生育期間中も	(麦踏み) 節間伸長期前(1月中旬)までに行う。	(土入れ) 節間伸長期前(1月中旬)までに行う。	(追肥・土入れ) 追肥後に土入れを行うと効果が高い。二月下旬~三月上旬にかけて追肥。	(防除) アブラムシ類の発生初期に防除する。	(防除) アブラムシ類の発生初期に防除する。	(刈取り) 刈取適期は3~4日間と短いので速やかに収穫する。
畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例
畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例
畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例	畦盛板による排水溝の事例

栽培履歴を必ず記帳し、収穫の10日前までに提出しましょう

### 6. 肥培管理

<例1>砂質田(水はけの良いほ場) kg/10a

肥料名	全量	基肥	追肥(2下~3上)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
硫酸銨 402	70	50	20	9.8	7.0	8.4
朝日BB 488				9.8	5.6	5.6
PKセービーコ 488				9.8	5.6	5.6
土づくり肥料	60~100	60~100				

1月に葉の黄化が見られる場合、追肥を10kg施用し、残り10kgを2月下旬から3月上旬に施用する。

<例2>粘質田(水はけの悪いほ場) kg/10a

肥料名	全量	基肥	追肥(2下~3上)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
硫酸銨 402	80	55	25	11.2	8.0	9.6
朝日BB 488				11.2	6.4	6.4
PKセービーコ 488				11.2	6.4	6.4
土づくり肥料	60~100	60~100				

1月に葉の黄化が見られる場合、追肥を10kg施用し、残り15kgを2月下旬から3月上旬に施用する。

<例3>基肥一発施肥体系(水はけの良いほ場) kg/10a

肥料名	全量	基肥	成分		
			窒素	リン酸	カリ
スーパーブレンドLP40	60	60	8.4	8.4	8.4
低PKスーパーブレンド			8.4	4.8	4.8
土づくり肥料			60~100	60~100	

※粘質土壌では使用しない。 ※12月以降の播種では使用しない。

▼土づくり肥料の一覧表 成分(%)

肥料名	ケイ酸	苦土	アルカリ分	鉄分	マンガン
スーパーケイカル	25.0	4.0	35.0	15~18	0.5~1
ユーケイカル	26.0	4.0	40.0	1~2	0.5~1
苦土石灰	0	14.5	53.0	0	0

※前年にpHの低下による酸性障害がでた場合は、苦土石灰を100~150kg/10a程度施用する。  
なお、pHを0.5上げるためには、苦土石灰約100kg/10aが必要。

### ●主要畑地雑草

種名	スズメノテッポウ	スズメノカタビラ	カスノコグサ	ノミノフスマ	ヤエムグラ	カラスノエンドウ
草姿						
防除のポイント	初期除草剤による防除	播種前と初期除草剤の体系防除	播種前と初期除草剤の体系防除	中期除草剤による防除	中期除草剤による防除	収穫前に必ず抜取

### 7. 防除管理(農薬の飛散防止に努めましょう)

①種子消毒

病害虫名	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	注意事項	作業日
裸黒穂病	ベンレート水和剤20	乾燥種子重量の0.5%	播種前/1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	

②雑草防除

区分	薬剤	対象雑草名	使用時期/回数	10a当たり使用量	散布方法・注意事項等	作業日
非選択性除草剤(麦も枯れるので注意)	ブリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後出芽前/4回以内	600~1,000ml	10a当たり100~150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかるとよい。	
	バスタ液剤	一年生雑草	播種前または播種後出芽前(雑草生育期)/1回	300~500ml	10a当たり100~150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかるとよい。	
初期除草	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草及び多年生イネ科雑草	耕起前または播種後出芽前(雑草生育期)/3回以内	200~500ml	(通常散布) 10a当たり50~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。(少量散布) 10a当たり25~50ℓの水に溶き、専用ノズル等で散布する。	
	ボクサー※1	一年生雑草	播種後~2葉期まで(雑草発生前~発生初期)/2回以内	400~500ml	10a当たり70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。ノミノフスマには効果が劣る。	
	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後~3葉期まで(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)/1回	60ml	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。播種後から雑草発生初期までは薬害を生ずる場合があるので使用しない。	
	トレファノサイド粒剤2.5	一年生雑草	播種後~出芽前/2回以内	4~5kg	手まきまたは撒粒機等で均一に散布する。抵抗性雑草が問題となっているほ場では使用しない。タネツケバナにはやや効果が劣る。	
中期除草※2,3	トレファノサイド乳剤※1	一年生雑草	播種後~発芽前/2回以内	200~300ml	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。抵抗性雑草が問題となっているほ場では使用しない。タネツケバナにはやや効果が劣る。	
	ハーモニー75DF水和剤	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ	播種後~節間伸長前(スズメノテッポウ5葉期まで)/1回	5~10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。器具使用後、速やかに消石灰500倍液でよく洗浄する。スズメノカタビラ、カラスノエンドウには効果が劣る。	
	アクチノール乳剤	畑地一年生広葉雑草	一年生広葉雑草の発生前、2または3葉期(穂ばらみ期まで)/2回以内	100~200ml	10a当たり70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。雑草が多く再度散布する場合には1週間以上間隔を置いて使用する。カラスノエンドウは発生前(遅くともカラスノエンドウ5葉期、麦の穂ばらみ期まで)に散布する。ヤエムグラは2または3葉期まで、一年生広葉雑草は発生前(いずれも麦の穂ばらみ期まで)に散布する。イネ科雑草、ユキノシタには効果が劣る。	

※1初期除草剤のボクサーまたはトレファノサイド乳剤を播種後出芽前に処理しようとする時、すでに雑草が発生している場合は、10a当たり100ℓの水に溶き、非選択性除草剤をあわせて溶き、噴霧機等で散布する。ただし、麦が出芽している場合は麦も枯れるので注意する。隣接ほ場の作物にからまないよう注意する。  
※2カラスノエンドウとスズメノテッポウの同時防除には、10a当たり100ℓの水にハーモニー75DF水和剤とアクチノール乳剤を溶き、噴霧機等で散布する。  
※3早播きのほ場や初期除草剤の散布が遅れた場合、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を逃さないように、天候を見ながら中期除草剤により雑草防除を行う。

③病害虫防除

病害虫名	防除時期	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	散布方法・注意事項等	作業日
赤かび病	開花始め(1回目防除)	トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	収穫30日前まで/出穂期以降は1回	10a当たり100ℓの水に(66.6~100g)溶き噴霧機等で散布する。	
	1回目防除の7~10日後	ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	
アブラムシ類	発生初期	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	

①②③について記載している薬剤の使用基準は平成30年8月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるので、使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容どおりに使用する。

作成：2018年8月

高品質化を図る！

収量と品質の安定化を図る！